

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～突然ですが、高校生のあなたは次の言葉を、

どのように小学生に説明しますか？～

自信・勇気・素直・友情・感謝・成功・独立・命の尊重・・・

教師歴32年、問題を抱えた子どもたちを次々と立ち直らせてきた伝説の小学校教師、平光雄先生は、紙芝居やイラストなどユニークな手法を駆使して、これらの言葉を見事に説明します。

さて、平先生は「自律」という、大人に対しても説明の難しい言葉を、どのように子どもたちに説明するのでしょうか？平先生の著書、『子どもたちが身乗り出して聞く道徳の話』に収録された31の話の中から一篇をご紹介します。

もう何年も前から言われていることだが「**自分のやりたいことはなんでもじゃんじゃんやっちゃえ**」というような、「自主性尊重」のはき違えによって、学校でも社会でも「節度」がない子が増えている。

レストランや公共施設、地下鉄などで騒ぎ回る子は数多いし、近くにいる親もそれを咎めなくて、むしろほほえましく？見ている、という場面もよく見られる。子どもたちも、「悪気」がある場合ばかりではなく、まさに屈託なく節度ない言動を繰り返す。自分の中に行動基準がないのだ。

どうやって、子どもの中の価値基準を内面化させるかが問題となる。

子どもに自ら節度を保てるように指導するのは一朝一夕にはいかない大事業だ。

根気のいる指導なのだ。そこでイメージの力を借りる。

何回叱られても、人に迷惑ばかりかけてしまう子がいるよね。叱られないときちんとやれない子もいる。

そういう子に足りないのは、これです。

「—————」(絵を描いて見せる)

そういう子は「自分で線を引く」ということができないんだ。この辺まではいい。

ここからはアウトというのが自分で線引きができない。

だからいつも誰かほかの人に引いてもらって、ガツンと言われなきゃはみ出てしまう。

世の中に、線は引かれていないけど、いろんなことに出てはいけな線はあるよね。

たとえば、「授業中に変な音を立てる」「地下鉄で暴れる」「レストランで騒ぐ」……などなど、全部「一線」を越えているよね。

これも自分で線が引けない人がいるということなんだ。

小さい子は仕方ない。そこで叱られてだんだん自分で、こういうときはこの辺が線なんだと学んでいる最中だから。

でも、高学年になってもそれじゃ、幼児と変わらないってことだよ。

自分の言動については、「自分で線を引ける」のが高学年です。

そして、それが「自律」ということです。

この話をした後は、折に触れ、子どもの言動に対し、「**今は線ギリギリだよ**」とか「**おい、今は線越えてないか？**」というだけで「自律」への意識を強化していけるとともに、言動の「線」について、集団でのコンセンサスを図っていくことも可能となる。

もちろん家庭でも同様であろう。

どうでしたか？ 君たちは、高校生です。県高生です。

自分の行動に・・・言葉に・・・自分で・・・「線」を・・・引けていますか？・・・「自律」できていますか？